

学校だより

NO 22

令和5年12月14日発行



学校教育目標 「心やさしく、思いやりの心を持ち、たくましく、知性豊かな倉田山中生徒の育成」

# 倉中だより

伊勢市立倉田山中学校

伊勢市神田久志本町 1645-2

校長 金森 晃 生

電話 22-9415

FAX 22-2198

E-mail

[kuratayama@jr.ise-](mailto:kuratayama@jr.ise-mie.ed.jp)

[mie.ed.jp](mailto:kuratayama@jr.ise-mie.ed.jp)

## 伊勢市人権講演会



9日（土）に伊勢市人権講演会がありました。1948年12月10日に、国際連合の総会で、全ての人民と全ての国とが達成すべき共通の基準として「世界人権宣言」が採択され、12月10日を「人権デー」と決めました。そのことを受け、日本の法務省は、12月4日から10日までを人権週間と定めています。そして伊勢市では、人権講演会が毎年行われ、様々な分野の講師の方をお招きし、人権について講演していただき、市民で人権について考える機会にしています。今年は山田ルイ53世（お笑いコンビ 髭男爵 ワイングラスで「ルネッサンス」でおなじみ）さんをお招きし「僕達にはキラキラする義務などない」と題した講演でした。その講演の前に、伊勢市の小中学校から各1人が選ばれ、人権作文を発表しました。その人権作文に、伊勢市中学校代表として、**本校3年 山崎陽菜**さんが選ばれ、市民のみなさんの前で発表してくれました。その作文を以下に掲載します。ぜひ、しっかり読んで、一人ひとりが自分の周りのこととして、人権について考えてほしいと思います。



### 「個性」と「笑い」

私はテレビでよくバラエティ番組を見る。おもしろいからだ。たくさん笑って、時には涙が出るほど大爆笑する。人をいじってとる笑い。ドッキリをしかけてとる笑い。テレビはすごい。色々なことを、多くの時間や費用、たくさんの人の協力のもと行っている。そして、その番組を見る私たちに笑顔を見せてくれる。けれども、人の容姿やその人の特徴、個性をいじる笑いを見ると傷つくことがある。個性をいじる人やいじられる人は、その芸がその人のウリで、それが仕事なのかもしれない。仕事上、必要なことで当たり前のことという考えもあるのかもしれない。けれども、それはテレビだから笑っているものなのではないだろうか。私たちの普段の生活でも、これは「笑い」として通用するのだろうか。私がこれらを真剣に考えるようになったきっかけは大好きな祖父についての出来事からだ。

私には大好きな祖父がいた。両親が仕事で忙しくて、家にいない時でも、学校から帰るといつも祖父がいてくれた。だから、寂しさもなかった。家ではテレビを一緒に見て二人で笑っていた。何があっても、笑顔でそばにいてくれた。

祖父は病気で太っていた。だから、膝も悪くつえもついていた。たくさんの錠剤を欠かさず飲み続け、注射も毎日していた。そんな様子を見ていたので家族全員、祖父に対していじることなど全くなかった。それが当たり前だと思っていた。けれども、家から出るとその当たり前が覆ることが多かった。道を歩いていたり、飲食店で食事をしたりしている時など、二度見をされるだけでなく、笑われたり、指をさしてこそこそ話をされたりなど、まるで珍しいもの、おかしいものを見るかのような扱いを受けていた。まだ小さかった私はそれがとても恥ずかしかった。どこに行っても周りの目を気にするようになった。すごく嫌だった。多分私の気持ちに祖父も気づいていた。

祖父は月日が流れるとともに、だんだんと歩ける距離が短くなっていった。外出に行っても車から降りず、私たちが帰るのをずっと待っていてくれた。どれだけ待たされても文句の一つも言わず送迎をしてくれた。そして、いつもの笑顔で「おかえり。」と言ってくれた。そんな祖父を見て、私は自分が違うと感じた。「私より、じいちゃんの方が悲しくて、つらい思いをしているのに」と。私は恥ずかしいという気持ちから、悲しさや悔しさ、強い怒りを覚えるようになった。祖父が必死で病気と闘っているのも、つらい思いをしているのも

知らないのに、なぜこんなに好き勝手に言えるのだろうか。簡単に人の嫌がることをしたり、言ったりできるのだろうか。私には理解ができなかった。けれども、当時の私はそれ以上に理解できないことがあった。どれだけ周りの視線が集まっても、嫌なことを言われても、笑われても、私たち家族の前で悲しい顔、つらい顔をしている祖父を見たことがなかった。いつも笑顔だった。それがなぜかわからなかった。答えを聞くこともできず、祖父は私が九歳の時に他界した。

今の私には、祖父の笑顔の意味がわかる。心配させたくなかった、気を遣わせたくなかった。私たちに、傷ついている姿を見せたくなかったのだろう。祖父が、亡くなってから五年たった今、私なりの答えを探すことができた。笑ったり、嫌なことを言ったりしていた人たちについてはどうだろうか。きっと、太っているという特徴を、普段の生活の中でいじって面白いもの、いじってもいいものだと考えているからだと思う。いじられた人もノリとして返していたら、人が傷つくものと考えるのは難しい。だから、「笑い」として一緒にいた人と共有し、笑ったり、その人の特徴を平気でいじったりしていたのだと思う。面白いと思う。楽しいと思う。けれども、違うと思う。傷ついている人がいるという現実にも目を向けてほしい。視点を変えて周りを見てほしい。そして、気づいてほしい。その人たちの気持ちに。

いじるとは何だろうか。立場や環境によって答えは変わると思う。だからこそ、簡単に使ってはいけないものだと思う。たとえ、いじられる人が笑っていても、それは本当の笑顔といえるのか。笑顔という仮面をとれない状況になっているだけではないのだろうか。もう一度考えてほしい。「いじる」という行為は、度が過ぎると取り返しのつかないことになる。テレビに出ている芸能人であっても、SNS等での度の過ぎた言動により、自ら命を絶つ人もいる。笑顔に見えていても、私たちに見えているものが全てではない。それを含め周りを見てほしい。自分と向き合ってほしい。それができるようになれば、誰かを傷つけたり、自分自身が苦しい思いをしたりすることは減っていくと思う。人の容姿や個性、特徴はその人の宝物である。だから私は、宝物を尊重できる人になりたい。仮面ではなく本当の笑顔が増えるような言動を心がけたい。

この作文を聴いて、おじいさんは自分の気持ち、行動を理解してくれてよかったと、きっと喜んでくれていと思います。また、この日は人権啓発ポスターの表彰もあり、市長賞に2人が選ばれました。

## 伊勢市人権ポスター市長賞

**2年の部**      **中西利乃花**  
**3年の部**      **多米彩花**



## ～ 保護者のみなさまへ ～

日頃は本校の教育活動にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。

先週は学校公開（授業参観）にお越しいただきありがとうございました。受付をしていた方は4日間でのべ135人でした。約3分の1の保護者のみなさまにご来校していただきました。校舎への入口がわかりづらく、ご迷惑をおかけしたかもわかりません。また、スリッパ等ご協力いただきありがとうございました。4日間は、天気もよく、温かく、参観していただくには、よかったと思います。学校での様子を少しでも見ていただき、本校の教育活動をご理解いただければ幸いです。また、参観の機会を設けたいと考えています。ありがとうございました。

本校は、11月下旬に2年生にインフルエンザが急速に広まりました。現在、伊勢市内の小中学校が相次いで学級閉鎖、学年閉鎖となり、感染が拡大しています。本校でもこれまで、感染が少なかった1年生と3年生にインフルエンザが広まっています。来週は1、2年生が保護者会です。3年生はもう少しで受験を迎えます。できるだけ不必要な外出を控え、マスクの着用や手洗い・うがいをするなど、予防対策をお願いします。睡眠時間の確保、しっかり食事を摂ることも大切です。各ご家庭でも、健康管理等よろしく願いいたします。

いよいよ今学期もあと1週間ほどです。事故、けがの無いよう学校も気をつけたいと思います。